

工事の監督者側にあつたのである。是れは一応尤の事であるというのは、是れより先、広島市の主要橋梁たる猿猴橋の沓鉄を、同市の有力工場が製作しても大失敗を招いている例もあることであるから、其の同じ品物を岩国の鉄工業者では出来難いであろうとの見方のあるのも無理はないが、わが組合員の藤村松太郎君には大なる自信があり、組合員一同共鳴して、郷土岩国の面目に掛けて是非とも他郷人に委ねず自力で作成しようということに衆議一決、見事立派な製品を作り上げ、橋台築造の劃期的改良工事に貢献することを得たるは、我等が子孫に伝えて光榮とするところであります。

橋の桁の巻金を三橋分——大工さんに型木を作ってもらい製作したが、鉄材が良質であつたために大工さんの作業がもやすく出来た。この巻金の取付けにはお盆も返上して急いだことは、私どもの思い出の種となる。最後に高欄金物の製作であるが、巻金の製法と言ひ高欄金物の製法と言ひ父祖口伝の作り法に従うのは勿論であるが、之に現代化学を応用するということは現代のような化学世界に生を享けたるものの当然なすべきことであると信じて、組合員一同が協力して力作てたから、後日何人が見られても恥しいことは一つも無いと確信を以て、後代の人々に言い伝えたいのであります。此く私しどもの担当は昭和二十七年十一月末に完工した次第である。

第十四章 岩国市責任当局者の再建工事體驗手記

(著者曰く) 錦帯橋再建工事は往昔藩政時代の独裁政治下に於けるが如く単調のものでない。多般、多様、多種、多端で、渾て世の中が分業として發達した現代に於て又旧日の夢を談すべきでない。随つて岩国市当局者が突如として此一大天災に遭遇し、旧藩政時代の藩重臣が極めて簡単に、当面の再建を成遂げた安易と同一視することの妥當に

あらざるは勿論である。著者は是れまで自ら知る所の範圍に於て再建の要領や其の経過を、各所の記事中に点綴しておいたけれども、本書も今や既に最後の段階に到達せんとするに臨みて、錦帶橋建設局の開序せられて以来、其の次長——實際は局長の仕事を実践したる——の職に就き、或は行政的に或は政治的に、或は財政的に經濟的に或は技術的に、百方經營の衝に立ちて文字通り流汗淋漓、力作したる錦帶橋建設局次長品川資氏の体験手記を本書の史徴とすることは、天下後來の郷土人に向いて、一九五〇年——一九五三年に至る錦帶橋再建總体の筋骨を語るに、最も眞實を伝えるものであることを思うが故である。

錦帶橋再建工事の概要

錦帶橋建設局次長 品川 資 (手記)

錦帶橋再建工事を担当した私共としては、知つておいていただきたいと思うことは山程あるわけであるが、限りある紙數に其の悉くを筆するわけにはゆかない。依りて後世の人々に、昭和二十五年キジア颱風の水禍に因りて延宝二年の再建以来、二百八十年目に初めて落橋流失した此の橋を回復するに、わが建設局が如何なる仕事をしたか、工事に要した経費は如何にして賄われたか、工事はどんな経過を辿つて出来たかというような問題を中心に、再建工事の要点について正確に書き留め後代の人々の考証に供じておきたいと思ひます。

一、錦帶橋建設局の性格とその処務概要

初め岩国市は、錦帶橋再建の為に昭和二十五年十二月、岩国市役所内に在來の「施設部」に、新に錦帶橋建設課を設け

て再建業務を執りつゝあつたが、同二十六年四月久能市長就任後、同七月之を局に昇格せしめて特別の独立機関となし局長（事務取扱）は市長之に当り、次長に私が任命された。此の建設局は現場の工事事務所であるけれども、其職務の範囲は単なる技術の面のみに止らず、勢い政治的にも財政的にも各方面と大きな繋がりを持つて居り、その特殊性に対応して再建工事を、一個特種の事業として強力且つ積極的に推進しようとする企図に基いて局の設置となつたのであるから、以前の施設部建築課の担当範囲に比すると、多分に政治的性格を加え、その処務方針も従来の「設計、監督」から財政と技術及び計画と施工の調整に重点が置かれるに至つたのである。錦帯橋建設局の主要業務の概要を挙げれば次の通りである。

(一) 予算の編成、決算及び資金の運営 国庫の負担金、補助金、県の補助金、寄附金、市費と資金の内容は複雑であり、従つて之が獲得、運営は容易の業ではなかつた。

(二) 建設資材の調達、出納保管、処分 所謂、半直営、半請負の形を取り、資材は総て建設局に於て調達し請負人に支給された。普通橋梁と違い特殊の構造であるだけに、資材の厳選、受渡の正鵠を期する為特に注意が払われた。

(三) 検収 一般の用材とは規格を異にし、殊に木材は錦帯橋の生命ともいふべき性質のものであるだけに、之が検収は厳正を極め且良材の調達に苦心を要した。

(四) 工事の計画、設計、監督、指導 文化財としての立場から良い加減な施工は許されない。その設計は綿密正確を要し、又設計図書に表現し難い特殊の工事の監督、指導は監督の立場に在る局技術陣にも、工事人側にも大きな悩みであつた。

(五) 気象情報の蒐集、降雨量、水量の測定 ラジオや測候所等の気象通報にのみ頼ることなく建設局独自の判断に依

りて防災対策を講じ得るよう努力した。

(六) 再・建・工・事・に・関・す・る・諸・記・録・の・作・成・、・保・存・

将来の参考資料として(1)再建工事用設計図書(2)工事の経過及特殊設計を

示す写真アルバムの作成、並映画の撮影(十六ミリ映画一、四〇〇呎、三ミリ映画二、〇〇〇呎)。工事中発掘された考古品、新規使用された木材防腐関係資料の整理を行い。映画を除く膨大なこれらの資料は総て岩国市に於て完全に保存され得るようにした。

(七) 錦・帶・橋・東・西・岸・地・の・整・備・

その他錦帶橋に附帶する護岸、道路取付き、緑地設置工事を実施した。

一、再建工事費と其の予算(財源)措置

(イ) 当初予算の編成

錦帶橋の再建工事は建設省に於て、昭和二十五年災害として査定を受け、之を根幹とし一応の工事費を決定したのである。

当初予算(昭和二十五年)は 総工費七七、四三五、二〇〇円

(内訳) 工事費 六八、〇二〇、〇〇〇円 事務費 九、四一五、二〇〇円

之が財源としては

1. 建設省関係国庫負担金 四六、九九三、四〇〇円(査定額、事務費負担を含む)

2. 文化財保護委員会補助金 一〇、〇〇〇、〇〇〇円

3. 山口県補助金 一〇、〇〇〇、〇〇〇円

4. 市費負担 一〇、四四一、八〇〇円 (市債一〇、〇〇〇、〇〇〇円、寄附金、雑収入四四一、八〇〇円)

であつて昭和二十六年四月の市議会に於て、昭和二十六年度岩国市特別会計錦帯橋災害復旧事業費歳入歳出予算として決議され、之に基きて工事を進めらるゝことになつた。

〔註〕(1) 此の予算は昭和二十六年度分予算(二十五年度を套襲)ということになつてはいるが、実質は錦帯橋完成迄の継続費ともいふべき性質のものである。

(2) 建設省の国庫負担金は全額負担ということにされた。然し、それは二十五年度の出来高に対してのみのことであつて、次年度からは此の査定金額に一定の比率(大体七割程度)を乗じ、実際の交附額が決定せらるるので、全額負担といつても全額が手取りになることを意味しない。

(3) 文化財及山口県の補助金は、市と両当局との交渉の結果、大体その程度は支出されるであろうという見込みのもので、確約を得たものではなかつた。兎に角、市は其れを予算収入に計上してあつたのであるが実際となると、文化財保護委員会の交附額は諸種の事情から右の一千万円より相当減額されることになつたのである。

(4) 建設省の国庫負担金は、錦帯橋が普通の道路橋であることを対象として算定せられている。勿論同橋は文化財として普通橋以上に多額の工事を必要とするが、是等は文化財及山口県の補助金、並に市費より成る所謂別途負担に依りて賄うことになつていた。ただ別途負担分の設計についても建設省と協議の上、その査定を受けなければならなかつた。

(ロ) 當初予算の變更 (増加)

然るに昭和二十六年七月十日、ケイト台風襲来に因る錦川出水の爲、工事に若干の被害を生じた。當時は橋脚基礎工事に着手したばかりの処であつたので、大きな被害ではなかつたにせよ、此の水害によりて一般の資材、勞賃等が高騰を続

けて其の影響を受け、その上橋脚井筒の変更（沈下八米を十米に）あり、其他設計変更を要する箇所を生じ、彼是れ綜合して既定の工事費予算にては遂行が著しく困難となつたので、建設省に協議の上、ケイト台風に因る被害を機会に一応二十五年災害工事を左記の通り打切りとし、改めて昭和二十六年災害復旧工事として再出発することになつた。それに依つて査定を受けたものが、工事費に於て当初予算より約三千余万円の増額となつた次第である。即ち

(一) 昭和二十五年災害を、昭和二十六年七月十日を以て打切り精算すること。

(二) 同日迄の出来高工事費（実施設計金額）を一〇、一一一、〇三二円、之に対する建設省国庫負担対象工事費を七、〇二四、〇〇〇円とすること。

(三) 右に依る国庫負担金額の残額三九、〇四八、〇〇〇円は、内未成として二十六年災害に転属せしむること。

斯くて昭和二十六年災害工事費は八八、一四八、八八四円（協議設計）、之に対する国庫負担対象工事費は七五、〇七三、〇〇〇円となつた。即ち此工事費の増額は国庫負担の増額とはなつたが、亦市費負担も大幅に増加せざるを得ざるに至り、昭和二十六年十一月、左の内容を盛つた昭和二十六年追加更正予算案が市議会に提出せられ、其の承認を求むることになつた。

総工費 一〇九、六八三、八〇〇円（二十五年災打切分及二十六年災分）

内 工事費 二六、九九、六八〇、〇〇〇円

事務費 一〇、〇〇三、八〇〇円

之が財源としては

1. 建設省関係国庫負担金 六〇、六〇三、九八〇円

2. 文化財保護委員会 一〇、〇〇〇、〇〇〇円

3. 山口県補助金 一〇、〇〇〇、〇〇〇円

4. 市費負担 三三、四四一、八〇〇円

市債 二二、〇〇〇、〇〇〇円

訳 内

一般会計繰入金 一〇、〇〇〇、〇〇〇円

寄附金、雑収入 四四一、八〇〇円

5. 昭和二十五年度繰越金 三、七七〇、〇〇〇円

此の追加更正予算の審議は、市議会に於ても相当揉みに揉んで漸く承認の決議となつた。と云うのは、岩国市は二十六年七月のケイト台風禍に次ぎ、其年の十月十四日には猛烈なる颱風ルースに見舞われて錦帯橋の再建工事にも被害があつたが、流木の為に市内今津川、門前川に架る七つの橋の内六橋が墜落し、田畑溝渠の被害亦夥しく、概算十数億円の損害を被つた其の直後で其の復旧対策意の如くならざる状態の前に、錦帯橋工事費の市負担増額案が、如何に天下の名橋、郷土の誇りを取戻す事業の為とは言い乍ら其の事のみに没頭出来なかつたのである。

(ハ) 又もや二十七年予算の異動

其後、二十七年度に於て予算編成上二回の異動を生ずるに至つた。

其一は、文化財保護委員会よりの補助金が、最初一千万円と見込み当初予算に計上しておいたが、前にも記しておいた通り同委員会の事情に因りて此金額は望めぬ状態となつて、同会が如何に努力するも六百万円程度しか予算の取れる見込のないことが判明するに至つた。此の大きな違算を如何にするかは錦帯橋の工事に取りても、岩国市に取りても、まこと

に大問題が突発したのであつたが、此窮状を推察した建設省は、其の尽力によりて同省の国庫負担対象工事を増加して七五、〇七三、〇〇〇円とし（手取り四、〇〇〇、〇〇〇円増額）文化財補助金の減額を国庫負担の増額に依りてカバーすることになつた。

因に云う、文化財保護委員会の補助一千万円に次で望みをかけた六、〇〇〇、〇〇〇円は、其後の事情で是れすら得難いことになり、更に減額されて結局三百五十万円となつてしまつた。文化財委員会は敢て錦帯橋を軽んずるにあらず一国の歳出入予算が文化財の部門に注入さるるもの他の諸事業に比して少なく、己むなく此に到れるは遺憾であるけれども、吾人は一国の文化財が国民文化生活の為に、もつと重要視せらるゝの日の来らんことを待望して已まない。其の二は、職員のベースアップ。借入金の子支払の増高により、事務費に於て三百万円を二十七年度当初予算に於て増加したこと。

その他、市費關係に於ても財政上の都合で、一般会計よりの繰入金起債に振替える等の必要も生じたので、其一の異動とを併せ、二十八年三月、更に追加更正予算として市議會に提出、議決を経て愈々決算に入つた次第である。（此の追加更正予算は内容の異動のみで総額には変りはない）

三、再建總工費收支決算

斯くの如くして当初予算に対し再三の変更を加うるの已むなきに至り、其間の市長、助役市議會議員諸氏の苦心經營一方ならざりしは以て大に諒察するに足る。責任を荷う私を初め建設局当局者としても、其の都度肝腦を絞つたことは幾久しく忘れることの出来ない生涯の一段節である。

さて漸くにして錦帯橋総工費の收支総決算を示すべき機会に到着した。昭和二十五年十二月下旬錦帯橋建設課（施設部

内の創設以来、昭和二十八年三月三十一日工事決算の結果は次の通りである。

(一) 支出

工事費	九六、八三九、八二七円
事務費	一五、七四五、二六五円二〇銭
計	一一二、五八五、〇九二円二〇銭

(二) 収入

建設省国庫負担金	六〇、六〇三、九八〇円
文化財保護委員会補助金	三、五〇〇、〇〇〇円
山口県補助金	一〇、〇〇〇、〇〇〇円
寄附金	三一九、六五〇円
雑収入	二六四、四〇九円余
純市費負担	四二、二〇〇、〇〇〇円
其の他	一、〇〇〇、〇〇〇円
計	一一七、八八八、〇三九円
差引残額	五、三〇二、九四六円八〇銭

内(市債) 繰入金 三二、二〇〇、〇〇〇円

収支決算の結果、五百三十万余円の残額を生ずるが、是れは其の全額が剰余金となるのではない。国庫負担金と別途負

損金との比率に応じ、国庫に戻入れしなければならぬものがあり、その処分については追て決定せらるべきものであるからである。

〔註〕(1) 収入の部に「その他一、〇〇〇、〇〇〇円」とあるは、旧橋残骸その他の雑品売却代等、錦帯橋特別会計と切離し処理するを適当と認めらるゝ雑収入を指称する。

(2) 前掲支出計一二、五八五、九二円二〇銭は昭和二十八年三月三十一日（二十七年度末）に於ける錦帯橋特別会計としての決算額であるが、その後の完成式の経費、残務整理の為諸費等約二百数十万円は市の一般会計に於て賄つているので、實際錦帯橋再建の為に投入せられた総額は約一億一千五百万円と見るべきである。尤も之等の決算額は査定前のものであるから確定精算設計書の金額と多少の相違を生ずるものも出来てくるやも図られないが、概数には変りはないことを附言して置く。

四、郷土人担当の調整化が必要

総べて工事施行計画なるものは、資金と季節と工事量等を参酌して樹立せらるゝものであるが、亦た資金の運営、天候工事の難易等によりて樹立された計画に、兎角変動を生ずるもので、錦帯橋の再建工事は割合に順調に進んだ方であるけれども、それでも大きな工事及び施工計画に変動が数回あつて、其の都度、工事関係者を少なからず困惑せしめたものであつた。こんな事は将来再建工事の起きた時の参考になるものと思うが故に手記して置く。

今回の再建工事も、之を大建設業者に一手に請負わしむれば、工事其のものは案外気楽に進め得たかも知れないが、何分にも此橋は郷土芸術として郷土人の手で護り且つ造れという伝統を重んじ隨意契約に依りて岩国郷土の土木建築業者の手に担当せしむることになつて居るので、再建工事総体を或る一種の大建築業者に担当せしむる簡単さが出来ない複雑さがある。此くして岩国郷土の業者に橋脚、橋体、鉄工、金具等各部門に別れて分担せしめ、資材は建設局に於いて調達の

申請負業者に支給するのであるが、元來是等請負業者は郷土人として不離の關係にありながらも、各部門に別れているから僅かな設計変更の生じた場合、甲より乙と波及するところ大きく各業者の調整と融和を図り、施工上一心同体の円滑化を期するに骨の折れること一方ならぬ場合も多かつた。これらの事は建設局の重要な業務の一つであつたといふべきである。

五、再建工事計画の變遷

最後に改めて再建工事当初の計画が予算、天候等の外部的事情に餘儀なくせられて變化ありし事を叙述して置かんと欲するが、当初の計画とは私共の未だ此業務に關係せざりし昭和二十六年二月、錦帶橋建設課に於て立案された計画で、其要点は

- (一) 工事は錦見側より着手し、順次横山側に及ぶものとする。
- (二) 昭和二十六年度は地質調査、旧橋残骸取除き作業実施後、橋脚全部を完成し、出来得れば第一、第二橋（錦見側より起算、以下同じ）の架設を終ること。
- (三) 昭和二十七年度は第三乃至第五橋の架設、河床床固め其の他の雜工事とし、二十八年三月三十一日迄に全工程を終る。

此方針に基きて工程表は作成され、工事は進めらるゝと共に、資材も之を基準として調達の手が打たれていた。

然るに二十六年四月には市長及び市議會議員の改選が行われ、津田市長に代つて久能市長就任し、市議会も殆んど半数は新議員が議席を占むるに至つた。恰も其年七月にケイト台風の被害あり、又過去數ヶ月に亘る施工經驗に鑑み、或は又資金との關係をも考慮に入れ、茲に昭和二十六年十月、前計画に対して大要次の如く變更（第一回）を加うることになつ

た。

(一) 昭和二十七年三月末日迄に第一第二橋は絶対完成せしむること。

(二) 之が為、横山側橋脚工事は多少遅延すべきも、水害を受くる虞れある部分は、冬季渇水期を利用し、雨期に入るまでに略ぼ完了せしむること。

(三) 第五橋の架設は、横山側橋脚の進捗状況如何によるも、成るべく二十七年七月末日迄に完了せしむること。

(四) 第三橋及び第四橋の架設は最も慎重を要するにつき、台風季を避け二十七年十月中旬より着手、二十八年三月三十一日迄に完成のこと。

(五) 渡初式(竣功)は四月又は五月の吉日を選び実施すること。

前記の(二)及(三)の工事は概ね所期の目的を達することが出来たが、(一)の第一、第二橋架設は台風に因る水害の為に原木の輸送に齟齬を来し、その上、木材の防腐剤注入加工の遅延、三月に於ける悪天候続き等の為、予定より三ヶ月遅れ、六月となつた。

第三橋及び第四橋の架設については、台風季の過ぎる十月中旬迄を用材の切組作業期間とし、十月下旬より一挙に二橋を架渡す予定の下に、一応の工程を定めたわけであるが

A 今夏(昭和二十七年)は降雨、出水の稀少で先づ架設工事に支障なき模様なること。

B 架設は出水の懸念を考慮し、冬季をねらつたのであるが、冬季は作業時間短かく、寒冷、降雪の為、作業能率低下するばかりでなく、雪解の為の出水もあり得ること。

を思えば寧ろ夏の渇水季たる八月を目標に、一橋でも架設した方が良いのではないかという説も、請負業者、建設局技

術陣で唱えられるに至つた。此の八月架設には（第四橋）各方面に於て相当の反対もあつたが、気象台発表の長期予報、過去数十年間に於ける気象実績等慎重に調査研究の上、天候之を許せば第四橋の架設を断行することを建設局は決意し、総ての準備を進めることにしたのである。幸に好天に恵まれ第四橋は予定よりも早く架設を終了、再建完成の見透しもついたので、更に施工計画（第二回）を変更し

(一) 第四橋架設終了後引き続き第三橋の架設に着手し、概ね十二月末、遅くも二十八年一月末日迄に完了すること。

(二) 右完了時期により、渡初式は一月十五日（成人の日）又は二月十一日（旧紀元節）とすること。

(三) 残余の雑工事は二十八年三月三十一日迄に終了せしめ、完工式を四月又は五月の吉日を選び行うこと。

とした、然して第三橋の架設は事実上二十七年十二月六日を以て終り、渡初式は一月十五日に挙行、三月三十一日迄には雑工事終了と共に再建工事を完成し、五月三日（新憲法発布記念日）を以て完工式が行われた次第であります。（昭和二十八年七月九日手記）

第十五章 再建復興の錦帯橋渡初式

一、大繪卷の豪華版

時は維れ昭和二十八年一月十五日（西紀一九五三年、皇紀二六一三年）これは此橋の歴史が劃期的大きな記録として、後世に語り伝うる光輝ある其日である。

数日前から或は雨、或は雪、或は強風、天候兎角定まらざりしに、此日は多少の寒風、人の膚を掠めるものありしも朝来の好天氣に恵まれて、時に霏雪の片々たるもの却つて渡初めの興を添えた。市の内外より此盛觀を見んものと集るもの朝より夕にかけて無慮五六万人と称せられ、街路は人を以て填められ錦帶橋下の広い河原は全面人の海と見えるのも強ち觀喜者の眼の迷いではない。以て如何に橋の墜落が郷土人の悲歎であつたと共に、其復興が郷土人の大歡喜であるかを想い見るべきである。

十四日の夜は明けた。鬱蒼たる御城山は青い絹夜具を纏うて横臥する前夜の暖かい夢から醒めたようだ。東の空には黄ばんだ薄衣の着物を脱ぎ棄てて立上らんとする漢おのこのような岩国山が、寒そうに御城山に呼びかけている其麓を、是れは又声も靜かに、寝ざめの姫のように流れている錦川のさゝらぎ。それにも目も呉れず曉の寒風も、飛雪も、氷ののような流れも委細関わす真裸のままで突破又突破、兩岸から競い起りて半空を一飛びに踰えんとする五聯飛龍の錦帶橋こそ、今日の榮ある勝利者、旭日は瞠々として東天を破り、其新しい光りを飛龍の胴腹へと投げかける。疾風一陣、北より来つて兩岸の枯葉を捲き、萬波を翻して行き過ぎて後は、天地寂寞、唯だ此中に、新装の橋は飛龍騰天の勢を自ら抑えて人の到らんを時待顔である。時は午前七時、花火は中空を劈いて歡爆、四面の山々からこだま返しこだまがへしの音響樂、野から海へと轟きわたつた。錦帶橋渡初の盛觀幕は展開した。

旭は昇る。時々刻々人々は東より西より南より北より魚鱗鶴翼の陣形を作つて、今日を晴れの新郎の袂へと押寄せて来る。岩国市営バス、国営バス、防長バス、広島電鉄バスは青、赤、縁、黄の色とりどりの装甲を以て次ぎから次ぎと列車のように乗客滿載で殺到する。午前八時というに橋頭橋下には東岸西岸とも群衆の顔が河原の小石のように眺められた。

此くて午前十時四十分渡初めの橋門開放までは、橋の東端渡り口が紅白の緒繩にて遮られてあるので、橋畔では群集
薙めき合うも橋上には寂として人影なし。毎日新聞、朝日新聞、産業経済新聞、讀売新聞、又は駐留軍の飛行機は独り得
顔に橋天半空を幾度か旋回飛翔して祝意を表する其爆音と羽ばたきが勇ましい。

一、悠久二百七十三年の廣嘉卿墓前

先づ開式は午前九時、横山なる城山々麓吉川家の菩提所、橋の創建者吉川廣嘉卿の石塔前に於て始めらる。参拜者は岩
国市長を始め参列代表者数十名、神官宮地保氏の修祓祝詞を以て嚴かに祀ら
れ、久能市長の奉告文あり各自玉串を捧げて式を終る。境内一域、老樹鬱然
古苔蒼然、吉川家岩国入封以来三百五十年歴代の列侯親等皆此塋域に眠り給
う。古塔累々列を成し磴道砥の如く墻壁亦城砦に似たり。封建の面影儼然と
して其昔を物語るがようである。其中に於て今日独り光華を發揚し其人猶生
けるが如きは廣嘉卿の墓碣である。あゝ偉大なる廣嘉卿。あなたの御遺業は
今や日本全国のみならず世界の彼方にまで響き渡りました。其御創意と之を
成遂げられた英魂とは世界文化史の上に永久に留存せられますと、礼讃して
玉串を捧げ默禱した。元和七年六月第二代藩主広正卿の世子として生れ、寛
文三年四十三歳にして第三代藩主を襲われ、延宝元年五十三歳にして錦帯橋
を創建し、延宝七年八月十六日五十九歳にて世を歿す。嗚呼悠久茲に二百七
十三年！

祭文

此の奥津城に永久に鎮り座す故の吉川
廣嘉公の御前に岩国市長久能寅夫謹み
て申上ます。

公の創建せられました錦帯橋は天下の
三奇橋の一つとして又世界の名橋とし
て三百年間芸術の譽を後世に残したの
であります。然し乍ら惜むべし昭和二
十五年九月十四日のキジャ台風に依り
て天なる哉命なる哉流失の悲運に遇つ
たのであります。その直後岩国の諸有

志相議りに議りまして再建に着手致しまして種々の困難に遇いましたが遂に公の創建になつたものと寸分違ひない立派な錦帶橋が出来上りました。

これは専ら公の靈魂の導き給ひし事は勿論の事で御座いますが、岩国市民の並々ならぬ努力の結集の賜であります私は嬉しくなりません。今日私を始め市民各位が公の恩顧を仰ぎつゝ嬉々として渡初の式を挙行いたします。何卒地下深く鎮り給う公も喜んで下さい茲に謹みて奉告祭を致します。

昭和二十八年一月十五日

岩国市長 久能寅夫

かくする間に時刻を要した。環列の大衆は咳払いもせず静肅に見守つた。三夫婦家族の夫妻はいづれも、八十前後の高齡者を頭に八家族が老いも若きも打揃うて前列に立礼し、特に人目を惹いた。

終つて十時四十分渡初開始に移つた。其順序は各々三メートルの距離を以て先導は錦帶橋建設局次長品川資一次で市長

三、錦帶橋下の橋靈奉告祭

参拜者一同踵を回らして錦帶橋下の祭場へと返る。午前十時祭典開始。斎主は椎尾八幡宮々司市木政彦氏。副祭司は白山比売神社宮司宮地保氏。白崎八幡宮々司今地氏、愛宕神社宮司鍵山茂樹の三祭司其他の祭司之に副たり。祭殿は幄舎に置かれ祭官神前に列座し、幄舎前の左右兩列には左側は祭主久能市長、市吏員の一行、其後には駐留軍司令官の一行特に目を惹いた。右列参列者の重なる者は、建設大臣（代理）河川局防災課長賀屋茂一、文部省文化財委員長（代）、山口県知事田中龍夫、参議院議員重宗雄三、同栗栖赳夫、衆議院議員受田新吉、山口県会議長二木謙吾、山口県町村聯合会長、参列者一般代表（著者）の順位を以て列立し、一般参列者は其周圍に群集佇立したる中に、其の王座を占むる渡初式嘉例の三夫婦一家揃いの一団八家族は幄舎正面の後方前列に在りて拜礼する。此くて修祓奏樂を以て開始され市木斎主の祝詞は久遠の天地に響きて嚴かに奏上され柏手の音も高く寒空に響いた。次で玉串奉奠が順を追うて行われ、肅々として神前に進み肅々として退いた。

—吉川家—桑田市議會議長—小川同副議長—三夫婦家族八組—市助役兩人—津田前市長—中津井前市議會議長—建設大臣—文化財委員長—山口県知事—(以下五メートル)國會議員—建設省關係官—県知事、土木部長、青木工学博士、佐藤工学博士—県土木部關係官、以下三メートル—來賓四列—駐留軍(四列)—一般招待者(四列)—市會議員—後は一般大衆。此隊列の渡初め通過後、橋上より恒例の「餅撒き」の式が行われた。我れ先きにと幸福の餅を掌にするを争うは又是れ祝日の一大景観であつた。橋上の渡列は要所々に待機する新聞社各社の写真班に撮影され、或は映画班のフィルムに長々とたみ込まれた。或は又駐留軍の写真班は日本の此一大祝節に日本の古風に則り行ゆるゝ行事を物珍らしげに、競うてフラツシュを光らして写し取つた。定めし任滿ちて本国へ帰還の時、好個のお土産となるであらう。

四、大講堂の祝宴は世紀的記録

かゝる内に隊列は渡り終つて横山の岩国高等学校構内へと繰込み、大講堂と外二校舎へ着席し直会の立食宴に列した。市よりの案内状は中央より地方、地元の公職、報道班、駐留軍幹部並に橋工事に關係したる人々等、有ゆる紳士淑女九百五十名に發せられ、内七百五十名の出席であるから、其盛宴たるや恐らく岩国始まつて以来の豪華版であらう。当日来賓の主なる諸氏左の如し

〔中央官庁〕

建設大臣佐藤榮作代理秘書官	大津正
建設省河川局防災課長	賀屋茂一
建設省建設研究所第二研究部長	工学博士 森徹

文部省文化財保護委員長	吉川需
代理文部技官	
自治庁選挙管理課長	桜沢藤兵衛

〔地方官庁〕

中国財務局長

森岡謹一郎

広島鉄道管理局長

磯崎 勲

四国中国建設局長

伊藤 剛

広島郵政局長

安原武夫

広島陸運局長

岡本 悟

〔国会議員〕

参議院議員

重宗雄三

衆議院議員

受田新吉

同

栗栖 赳夫

〔報道関係〕

広島放送局長

杉本 亀一

朝日新聞西部本社社長

岡 一 郎（代）

防府放送局長

宮田 孝造

中国新聞社長

山本 実一

毎日新聞西部本社社長

藤原 勘治

防長新聞社長

佐々木 健児

同

事業部長

富岡 昭

〔山口関係〕

山口県知事

田中 龍夫

山口県会議長

二木 謙吾

同 土木部長

永井 重雄

同 十市市長会長

山下 太郎

同 商工部長

小田 義男

同 十市議会議長会長

小西 肇一

同 教育長

野村 幸祐

同 玖珂郡町村会会長

森本 常雄

〔岩国市関係、其他〕

早稻田大学教授工学博士 佐藤 武夫

前岩国市長

津田 彌吉

同 工学博士 青木 楠男

元岩国市長

永田 新之允

同 工学博士 十代田 三郎

元岩国市長

西村 茂生(代)

吉川元子爵家代理 吉田 信夫

〔岩国駐留軍〕

司令官ジョセフ・エー・モリス大佐及び其属僚

此くて席定まるや司会者より開式の辞ありて久能市長起つて来賓に対する式辞の朗読、次で桑田市議会議長の挨拶、其れより来賓の祝辞に入り佐藤建設大臣、文部省文化財保護委員長、田中山口県知事、重宗、栗栖、受田の国会議員、毎日新聞社代表藤原勘治、中国新聞山本社長、防長新聞佐々木社長、最後に岩国駐留軍司令官等、相次いで登壇し朗読又は演述せられた。其度毎に拍手嵐の如く起つた。

此の来賓祝詞の中に加わりて最も異彩を放てるは岩国駐留軍司令官モリス大佐の祝辞が、此橋に対する外国人の觀察並に感興として、特に耳を傾けしむるものがあつたことである。去二十六年二月廿二日の起工式に際して時の司令官の祝辞も、吾人は外国人の所惑として傾聴したが、今日も亦、郷土人同士の自画自賛的祝辞の中に外国人から此一祝言を贈らるゝに接して、錦帯橋の存在が過去に於ても未来に於ても、世界文化財史の上に極めて貴重なるものであることを、一層深く知られた心地とする。

外国人たる駐留軍司令官は、偶々日本に来て而もそれが岩国に來合せて此橋を見て異常の傑作たるを歎賞し、欧米もま

だ千六百七十三年の時代に早くも日本人が此構造を成遂げた其の創造力を礼讃するに至りては、一外国人の声、否な外国人の誰れもが代表する声として、我々は耳を欽てて聴取せねばならぬ大演説であつた。

最後に興風時報社長塩井亮吉氏（岩国市議会議員、錦帯橋建設特別委員長）の祝歌の吟詠を大団圓として宴を開き交杯数刻、重宗参議院議員の発声にて萬歳三唱堂を勤かし、さしも此大盛宴も各自歡喜の微醉顔面を、時ならぬ寒空の桜色に染めて散会を告げ歸路に就いた。

更に中央地方の重なる公職の人々を招宴して尽きぬ歡びを共ににした。第一会席（深川樓）第二会席（三原屋）第三会席（半月）第四会席（今津油政）第五会席（今津久義萬）等にて遠近來祝の勞を犒つた。思う後世の子孫諸君、幾百年前此盛事ありしを此史書によりて見給うとき、諸君の祖先が如何に此佳き日に狂喜したかを、歴史の階段を通しての絵巻物として見て下さるであらう。

五、歡喜に満ちた其日の市街

歡喜の町は店々の軒先に「祝錦帯橋渡初式」の石版刷の色刷紙を絲で連ねて全市街さながら満艦飾のように、ヒラヒラと往来群客の頭の上に翻つてゐる美しさ。百花爛漫其ものようである。其間を小中学児童や少年少女の旗行列の勇ましさは未來の國民、それは今後数十年の後、永久に此樂しき日を子孫に言い伝える——二十世紀から二十一世紀に繋がりて生き抜く市民として、其好運命を祝福したいほど愛らしい光景であつた。別に行われた大名行列、吉川藩主の乗用した其の御輿おこしを中央に之に乗りたる大殿様の装者は誰れか、此日の寵児の隨一、果報者であらう。又素人のど自慢が山口県東部予選、広島放送局主催全国中継で岩国小学校講堂にて行われた。其の出演者は何れも其お里に於ての喉自慢鼻高かの天狗連である。

此くて市内の雑園は夕刻まで続いた。家々には遠方の親戚故旧を招いて燈を点じ自祝交盃の喜びを分つ者も多かつた。日は西山に傾きつゝ晴れの姿の錦帯橋を蒼烟漸く濃き中に包む頃、人は三々伍々散じ去つて夕闇の空には星が瞬きはじめて。吹く川風の音も靜かに川のせせらぎは二つ三つ星の光を乗せてしづ心なく流れてゆく。朝来歡呼の声今安く^{いづ}に在る。河原一面寂として只だ町の電燈の光、幽かに白砂を照すのみ、カランコロンと橋行く人の下駄の音が聞える。民謡詩人野口雨情の歌に残せる『誰れに逢うやら錦帯橋を、からんころんと下駄で行く』——あゝ二年有半、絶えて此音を聞き得なかつた其幽音、情調よ、川風徐ろに袂を払へば五聯の橋の新しい木の香り、正に是れ暗香浮動の梅林に立つようだ。

六、時代の鏡、報道陣と錦帯橋

新聞紙は其の時代の世相を如実に映す鏡である。此の日の事を盛んに書き立てて報道を競うた花々しい筆の爛漫は、其れ自身が当日の豪華版でもあつた。日刊、週刊、旬刊と、とりどりの新聞紙の中に、日刊として広島市に本社を有し、岩国に支局を有し、郷土に多くの読者を有する『中国新聞』は、一月十四日から十五、十六日に亘りて、其の全紙面の四分の一を錦帯橋渡初式に費やし、敢て他紙に後れざらんことを期してくれた。思うに後代の人々が、一九五三年、昭和二十八年一月十五日の其の日に頭を回らして、昔、昔の橋物語りに耽けるとき、此の中国新聞の記事のかずかずも、新しい回往事談として、或は錦川原の涼み台の上に、或は秋の明月落ち敷く小石原の上に、或は春は桜の爛漫たる中に、語り伝えらるゝであらうと思ふ程に、茲に五十年百年の後の世の人々のために、「報道陣と錦帯橋」の面影の一例として写真満載の中国新聞記事を記存しておくであらう。（写真版は本書巻頭に其の三四を中国新聞提供として掲ぐ）

新生錦帯橋晴れの渡初式

昔のまゝの姿再現 岩国全市に祝賀繪卷

(中国新聞)

【現地にて本社ラジオ・カー発】岩国六万五千の市民が喜びの錦帯橋渡初式の日がついに来た。雪をまじえた寒さに明けたこの朝、雪衣装の城山のフモトを流れる錦川の流れもこの喜びに生気を取り戻したかのよう、名橋は三百年前往古の姿をそのままに五連のアーチをその清流にうつしていった。祝錦帯橋渡初め”のひ露が中国新聞の小旗などに飾られて西岩国の街々は朝早くから人出にざわめき十五日午前九時半岩国市観光協会主催、中国新聞社協賛の打上げ花火がこの記念すべき意味深い式典の開幕を告げた。

久能岩国市長をはじめ直接工事関係者など参列のもとに同市横山城山のふもとに眠る名橋創設者岩国藩主吉川広嘉公の墓前で喜びの奉告祭が厳肅にとり行われた。そのころ天気はすつかり回復、まぶしいばかりの冬の日が輝き、中央、地方約千名にのぼる多数の来賓たちが三々五々錦川河原に集合。往昔の日本土木工学の粋を集めたその構造美に今更のように感嘆の声を放つて見上げていた。十時四十分渡初めの神事が終つて渡初めの式順に移つた。久能岩国市長は品川同橋建設局長の案内で感激の面持ちひとときわに晴れの渡橋のアーチを切る。ときに十一時十分

ここに昭和二十五年のキジア台風禍に流失して以来、一年九ヶ月、一億二千五百万円の巨費延べ六万五千人の労役が投ぜられて工事を急いだ錦帯橋は意義深い再建の渡初めの第一歩を広く天下に告げたのである。このころ錦帯橋周辺や錦川河原に集つた市民およそ三万、間断なく打上げる花火に和して万歳の連呼にきよようの喜びがわき上る。歩み踏みしめる橋板の音もさわやかに渡初めの人々の中には在京吉川家の名代や再建の緒口をつけた津田前市長、中津井前市会議長この技術的指導に当つた佐藤、青木の両博士の明るい顔、包み切れ

ない喜びのトゥリョウたち、千載一遇の参列に感激する三代にわたる三夫婦八家族の一団、そうしてきよようこの、成人となつた千六百余名の成年男女の元気な顔の長い列が印象的であつた。古式ゆかしい大名行列の渡橋を最後に式典は岩国高校の祝賀会場に移つた。午後一時祝賀会を終了、この日祝賀行事は花火大会のほか、市観光協会主催の市内の小学校生徒児童たちの旗行列や相撲大会、NHKのど自慢中継放送、撮影大会、また新聞社の空からの祝賀など多彩に展開され、ラジオ中国はこの模様を同九時半から実演放送する。なご西岩国地区は祝賀にわいた。

初めの橋
渡錦

花見をしのぐ人の波

岩国市民六万五千の喜びにきびしい寒風も吹き飛ぶここ城山のふもと、錦川の清流と晴姿きそう木の香もあらたな新装錦帯橋はありし日の姿のままに五連の優美さを水鏡にうつしていた。ひとり岩国の誇りだけでなく観光山陽路のともに誇る名橋というだけに、きのう十五日の渡初式には桜どころ岩国の花見どきをしのぐほどの人波が各地から押しよせて寒さの中にも冬陽に輝く錦帯橋付近は終日にぎわつていた（写真はわれもわれもと渡初めに押しよせた人波）（巻頭にあり）

“錦帯橋渡初式”こぼれ話、あれこれ

△錦帯橋渡初式の人出はざつと三万、それも渡初めのころにはどつと錦帯橋前に押しかけ身動き一つできぬ文字通りの人の山、たまにかねたか沖村同市署長は十数年振りには交通整理台に立ち吹雪を衝いて陣頭指揮に当つた。

△市長、三代夫婦につづいて成人者の渡初めが終り“下に”“下に”のやつこ行列が身振りよろしく繰り出し、昔なつかしい古典絵巻をくりひろげた。

△人出に加えて近年にない雲波の襲来は錦帯橋畔の旅館飲食店にとつてはうつつつけのかき入れどきで、旅館は前日の十四日すでにいつぱい、料飲店も押しかけた客足にうれしい悲鳴だつた。

△岩国西郵便局ではこの日はじめて錦河原に「声の郵便局」を特設したが、一回の吹込み料三十円はなじみやすいのか大繁昌、中でも若い者たちののだ我慢が大半を占めていた（岩国）（中国新聞）

七、貴重な後世の文献たる祝辞

昭和二十八年一月十五日の渡初式場に於ける式辞及び来賓の祝辞は、後年の貴重なる文献であるから、茲に之を特載して伝え置くものである。

式 辭

百代千代までも此の名宝を保護し行かん

岩国市長 久 能 寅 夫

若人元服の成人の吉日を卜し、本日ここに名宝錦帶橋渡りぞめの記念式を挙げることにになりました。私は今朝、錦帶橋の創案者であります旧岩国三代目の藩主吉川広嘉卿の墓前にぬかづきまして謹みて渡りぞめの次第を奉告致しました。想えば延宝年代、旧藩の文化ようやく興隆の域にあります時に際し、人民の苦難をおもんばかつて夙夜流れない橋をと深慮の結果、ニュートンの引力発見にも等しい流れない名橋のヒントを発見されたのであります。そこで湯浅七右衛門以下多くの優れた技術者や藩士を督励されまして遂に天下に比類のない名橋が出来上り、昭和二十五年九月十四日のキジア台風襲来に到るまで三百年間儼としてゆるぎなく芸術の譽れをほしいままに致したのであります。錦帶橋の名橋であります。由縁も芸術上の価値以外に土木建築学上、日本人の優秀な智識とその斗魂をこの一橋に象徴したものであります。

こうした名宝でありますが故に、前市長以下六万市民は打つて一丸となつて関係御当局にお願いし、ひたすら原型のままの再建へと努めたのであります。幸いにしまして政府御当局を始め全国民の深い御理解と御援助を得まして一昨年二月残がい横たわる錦河原で起工の式典を挙行致しました。以来佐藤、青木両博士を設計並総監督者として工事を進め遂に二ケ年の今日、檜の薫りも芳醇として心持よいうちに古典ゆかしい渡りぞめを行いました。然しながらこれで総てが終つたわけではありません。いまだ敷石その他の工事が残つておりまして落成までにはなお時間を要しますが要するに取敢えず渡りぞめの記念式を挙げる事が出来たことは、吉川広嘉卿の靈魂の御導きと、今日ここに御列席各位の絶大な御援助の賜でありまして欣喜雀躍のうちに赤誠以て感謝の意を捧げる次第であります。私どもの責務と致しまして最終の落成をみますまでは大いに緊陣をゆるめず、且つ百代までも千代までもこの名宝を保護して行くことをお誓い致しましてこの栄ある式典の御挨拶と致します。

挨拶

六萬市民熱力の結晶的顯現

岩国市議會議長 桑 田 佐 助

本日錦帯橋渡初式を挙行するに当りまして年始御多端にも拘らず遠路態々国会議員各位中央関係各位、地元県知事、県会議員及び県下各市の各位を始め多数の御臨席を辱うし、ここに盛大に挙行することが出来ましたことは地元議長と致しまして誠に感激の極みであり有難く厚く御礼申し上げますと共に一言御挨拶を申上げる次第で御座います。

顧りみますれば昭和二十五年九月十四日西日本一帯を襲つたキジア台風に依り不落を誇りました錦帯橋も遂に流失の慘事を見ました時は市民齊しく啞然たるものが御座いました。

此の錦帯橋は今を去る二百八十年の昔、延宝元年時の岩国藩主吉川広嘉公が当時の建築技術の粹を極め創造されたものでその精細巧緻の技巧は我が国古来文化の精粹にして広く天下にその名を讃えられ、大正十一年には史蹟名勝天然紀念物保存法により「名勝」に指定され保護されて来たものでありました。この国宝的存在である名橋錦帯橋の再建は文化国家として、重要文化財保全の見地から当然原型復旧に、との地元の熱願は各位の御支援を得まして関係御当局に陳情致しました結果、建設省並びに文化財御当局を始め各界各位の御理解ある御取計によりまして原型復旧の認可を得ました時は六万市民全く感激にむせんだ次第で御座います。依つて翌年即ち昭和二十六年二月二十二日これが起工の運びに至り、その後幾多の障害と容易ならん困苦が伴うたのでありますが、この間克く各位の御指導と御援助によりましてその宿願も叶い昔を忍ぶ麗姿を再び錦の清流にうつし本日その渡初式を挙行致します運びに成りましたことは、是れ一重に関係者各位の筆舌に尽せない並々ならぬ御援助に依るものでありまして厚く御礼申上げる次第で御座います。この慶びは地下に鎮

まれる広嘉公もさぞや満足されていることと申うのであります。

終りに臨みまして錦帯橋原型復旧に御指導御協力を賜りました各位に対しまして深甚なる謝意を述べ併せて本工事に従事せられました方々の御勞苦に対しまして甚だ簡単に御座いますが一言蕪辭を述べて御礼の御挨拶に替える次第で御座います。

祝 辭

高度な技術の綜合された

驚異すべき二百八十年前の土木工事

建設大臣 佐 藤 榮 作

本日茲に錦帯橋渡初めの式典を挙行せられるに当りまして祝辭を申し述べる機会を得ましたことは私の深く欣びとするところであります。

夙に天下の名橋として広く喧伝されておりました錦帯橋は昭和二十五年九月当地を襲いましたキジア台風によつて一瞬にして流失の災を蒙り慨嘆に耐えないところでありましたがその後地元並びに関係者各位の本橋再建に注がれた捷まざる御努力がここに見事実を結んで旧橋にも勝る名橋が完成される運びに至りましたことは郷土出身者の一人と致しまして感慨無量であり全く欣快に堪えない次第でありまして本日御出席の皆様とともに心よりお欣び申上げたいと存じます。

そもそも本橋は遠く延宝二年当岩国藩主吉川広嘉公が苦心考案の末築造せしめたものであります。本橋が世界に誇る名橋たる所以は常に岩国市道として交通の重要な役割を果せるのみではなく特殊の構造をもち然も県下屈指の洪水河川である

で構成されておりますが、かかる長大橋が木材のみで組み合わされ、而も今日の進歩せる力学に合致せる構造をもつて築造されているのは世界にその類例を見ないとされております。又橋台は築城法の粹を尽して堅牢を加え、しかのみならずこの橋台及び橋脚の崩壊を防ぐため河床工事にまで万全の考慮が払われておるのであります。

斯くの如く高度な技術の綜合された土木工事が機械文明の幼稚なる当時において完成されたことは二百八十年後の文化をもつてしても驚嘆に値することでありまして、かくの如く科学的な裏付けをもつた本橋はその外見の美観と共に天下の名橋として広く世間の注目をひくこととなつたのであります。

大正十一年に至り史蹟名勝天然紀念物保存法により国家が文化財として本橋を保護建造物に指定したる所以もまた茲に存するのであります。

然るに昭和二十五年九月台風の襲来に伴い本橋も一瞬にして流失の災を蒙るに至りましたことは岩国市民の慨嘆は申すまでもなく世間一般からも深く惜しまれたのであります。幸い地元並びに関係各位の御努力により遂に国において災害復旧助成事業として採択を決しここに錦帯橋の復築工事は緒についたのであります。爾來岩国市は財政資材技術等各般の困難を克服し、今日の成果を齎らされたことは洵に感謝に堪えない所でありますと共に県当局を始め全県下の協力一致せる多大の御支援に対しても深く敬意を表する次第であります。

更に本橋施行については慎重に被害の原因を検討し被害根絶に万全を期すると共に近代技術を遺憾なく採り入れもつて旧に勝る名橋を再現せしめたことは交通文化経済に寄与するところ多大であると共に観光都市岩国に更に光彩を添うるものと確信する次第であります。

庶幾くは関係各位におかれましては本日の喜びを記憶せられて本橋の愛護保全に努められもつて後世に永く此名橋を伝え

られますよう祈つてやみません。一言所懐を述べましてお祝いの詞といたします。

祝 辭

近代的工学の粹を包藏する新しき錦帶橋

山口県知事 田 中 龍 夫

成人の佳き日を卜し名橋錦帶橋の渡り初式を挙行せられるに当り一言お祝辭を申上げる機会を得ましたことは私の最も欣快とするところであります。

顧みまするに本橋は延宝元年十月時の藩主吉川広嘉公が架設せられ爾來三百八十年の星霜を経て防長二州隆替の歴史の跡をながめ続けて來た名橋でありまして、その施工には当時の築城法を基礎とする最高の技術が採り入れられよく現代科
学に合致せしめていることは、誠に驚嘆に値するところであります。しかも紫匂う城山を背景として水清き錦川に夢の如く架け渡された五橋の眺めは誠に風光絶佳真に天下の名橋としてその美を誇り貴重なる文化財としての存在であつたことは今更贅言を要しません。更に大正十一年三月八日には内務省において名勝に指定され、その保存にも特別の保護が加えられて來たのでありますが、昭和二十五年九月十四日のキジア台風による錦川の洪水に際し橋脚の崩壊に伴い惜しくも全橋の流失を來したものでありまして、錦帶橋の名称のみを聞いて岩国市否広く山口県を連想するに足るこの名橋を郷土より失つたことは、真に父母肉親に離別した以上の淋しさを覚えましたがとも亦各位とその感を同じくするものであります。

幸い建設省において災害復旧工事の査定に際し本橋の復旧を採択され、又文化財保護委員会よりも補助の対象とされたものの膨大なる政府予算における資金関係の措置や起債の削減等幾多困難なる隘路にはばまれて、その着工の見透しさえ

も仲々容易でない実情にあつたのであります。

然るに市当局を始め地元各位の切実なる御要望と強き御熱意は遂に中央を動かして翌二十六年二月には早くも起工式を挙行の運びとなり、昨年十二月六日最後の第三橋の完成をもつて一応五橋の全部がしゅん功するに到りましたことは、まことにおよびるに堪えないところであります。殊にその間、市当局及び地元の方々の払われた絶大なる御努力に對しては深甚なる敬意を表する次第であります。斯くして完成したこの錦帯橋はその構造において特に橋脚に近代的科学工法の粋を包藏し、しかも外觀はどこまでも古来の面影をそのままに留める不落の五橋として昔日にも増してその美を永く後世までも發揮し続けることと確信するものであります。

今日のこの盛大な渡初式に参加した光榮とよろこびをこゝに重ねて表明いたしますと共に、御參集の各位におかれまして昔ながらの錦川の清流を東西に虹の如く帶の如く架け渡すこの錦帯橋を、觀光文化都市岩国のシンボルとし將又防長の誇として、その優美なる姿を永く保存せられるため、これが愛護にいよいよ御尽力あらんことを念願して、私の祝辭と致します。

祝 辭

錦帯橋再建落成は岩国都市の画期的時代を示す

参議院議員 法学博士 栗 栖 舂 夫

本日のおめでたい日を卜して、ここに天下の名橋、錦帯橋が再建せられ、あの雄大壯麗な姿を、ふたたび観ることが出来るに至りましたことは、当岩国市の為には勿論のこと、広く日本の為にも、亦まことに慶賀に堪えないところであります。

顧みまするに、去る昭和二十五年のキジャ台風に依て、創設以来二百八十余年の間、不流不失を誇つてをりました此の名橋が、一瞬に流失いたしましたときは、人々はただ／＼悲嘆と愛惜とに暮れたのでありますが、爾来凡ゆる困難に耐え国と県との補助を得て、昭和二十六年二月再建の工事が起され、此の度其の竣工を見ましたことは、是れ岩国市民及岩国市当局、山口県民及山口県当局の異常なる御努力は申すに及ばず、広く国中の人々各位の並々なぬ援助と激励との賜に外ならぬのでありまして、わたくしはここに之に對して深甚の謝意を表せざるを得ない次第であります。又佐藤、青木両博士が橋脚の内部を鉄筋コンクリートとして、従来のものよりも一段と堅牢にせられたと同時に、其の外面には花崗岩を張り、以て昔の儘の外観を保持するように努められた点に對しても、わたくしは其の御苦心の程を厚く感謝せねばなりません。

元来、今から二百八十余年前に、旧藩主吉川広嘉公が、この天下の名橋を創設せられた当時の岩国は、慶長六年吉川広家公が岩国に移られてから、新に堤防を設けて錦川水域を調整し、街割りを定め、家士の屋敷、商舗、農家等が夫々築造せられ、城下町が先づ出来上つた頃でありまして、錦帯橋の創設は、あたかも「城下町岩国」の出来上つた事を示すシンボルであつたとも言ふことが出来ると思ふのであります。広家公の岩国入封から広嘉公の錦帯橋創設前までを、岩国藩政史の第一期、即ち「城下町岩国」の造営期と見ますれば、錦帯橋の創設は之より第二期、即ち「城下町岩国」の熟成発展期に入ること示す所謂エボック・メイキングな出来事であつたとも申すことが出来ると思ふのであります。實際に於て、この頃に至り初めて「城下町岩国」の街並が完成して士庶の生活が一通り安定し、城下町としての活動が一応軌条に乗り始めたことを認めることが出来るのであります。

然らば此の度、此の名橋が新しき技術を採り入れ、更に一段と堅牢さを加へて再建せられた事は、岩国市の為めに、何

を示し何を意味するように努むべきでありましょうか。今や星移り年改まり、昔の「城下町岩国」は發展して、帝国人絹其他の大工場を包容する「工業都市岩国」、世界の各地を繋なく「国際空港岩国」となつた次第でありますが、わたくしは、今回の錦帯橋再建を機として、更に一段と岩国市民及岩国市当局の異常なる御奮起と御努力とを希い、また広く各地各方面の方々の御力添を頂戴して、岩国市がなお一層の飛躍的發展を為し、現在人口六万余の当都が人口十萬乃至數十萬の大工業都市、大国際空港都市とならむことを切に望んで已まない次第であり、今回の名橋再建が次期大都市への發展のシンボル。エポックメイキングとならんことを、ここに強く訴へて息まない次第であります。

以上極簡単でございますが、所存の一端を述べて祝辭と致したいと存じます。

祝 辭

世界平和へつながる美しい虹のかけ橋

衆議院議員 受 田 新 吉

本日は若人のすく／＼と伸びることを祝福する成人の日であります。此のよき日、此の晴れ渡つた天候の下に、天下の名橋、錦帯橋が新しい装いを以て落成の日を迎えた事を地元選出の国会の一員として心から御慶び申上げる次第であります。

私は此の名橋の輝しい新発足に當つて次の様な意義を考えたいと思います。

錦帯橋が先般の未曾有の風水害の為に流失して以来、極めて短時日の間に一層の堅牢を以て再建され、文字通り禍を転じて福となし得た事は全く郷土の皆様の暖かい心の結果が実を結んだのだと思うのであります。岩国市民皆様の再建への

御熱意と県当局や政府の深い御協力と党派を超えた地元選出の議員達の御奔走及び土木建築関係の人々の撓まない努力などが、すべて一体となつて此の名橋完成へ集中されたのでありまして、即ち此の橋を愛する総べての人々の総和の致すところだと確信いたします。私は此の言い知れぬ大きな力の前に深く頭を垂れるのみであります。

又私は、此の名橋は稀に見る文化財として岩国の誇りであると共に、山口県の誇りであり、更に世界の持つ名橋であることを特に高らかにうたいたいのであります。私達は先輩が残した文化の遺産が世界にも広く宣伝されて、観光を通して世界の文化と平和に貢献していることを忘れられません。

私は昨年夏、M R A 世界大界出席の為、アメリカに参りました際、はしなくもワシントンのホテルで世界の観光グラフの中に、此の錦帯橋の写真が大きく出ているのを見たとき、どんなにうれしく感じた事でせうか。

私達は此の日本は勿論、世界的文化財としての名橋を我が郷土に有しているのであります。此の五つの連橋がきつと世界の平和へつながる美しい虹のかけ橋であることを信じます。平和の象徴としての錦帯橋再建の意義を深く考え、その落成を祝福すると共に、その幸多かれと御祈りして祝辞といたします。

祝 辭

観光地百選投票の建造物の首位 百二十三万票の錦帯橋再建

毎日新聞西部本社代表 藤 原 勘 治

本日は誠に佳き日であります。衷心から御祝を申し上げます。

かえり見ますれば国宝的名橋錦帯橋が、新日本観光地選定会議毎日新聞社主催の観光地百選投票に参加しまして、百二

十三万余票という圧倒的な成績をもつて、建造物の部に首位の榮を担つたのでありますが、昭和二十五年九月十四日あのキジャ台風の猛威にあい、中央三橋を濁流の中に没したのであります。岩国市民皆様方のおなげきはいかばかり大きかつたことでしようか、否日本国民あげて痛嘆したことであります。

是が非でも貴重な文化財を再建してかつての温雅な詩情豊かな面影を清流に映したいという岩国市民皆様方の悲願が本日の渡初式となつたと存じます。

本日は昔ながらの麗姿を目の前にして喜びこの上もありません。群峯の常緑に映えたアーチ形の優雅な木橋が、錦川の清流に影をうつしております。誠に一幅の絵と申すべきであります。

本日は渡初式をお祝しますとともに、名橋錦帯橋が永久に保存されますよう祈つて止みません。

祝 辭

世界に誇る構成美と 理工学金字塔の民族的遺産

中国新聞社長 山 本 実 一

曩のキジャ災害により世界的名橋として、その名を謳われました錦帯橋が瞬時にして流失しましたことは最も貴重な日本の代表的文化財を失つたという点において、天下均しく痛恨したところであります。この橋が特異な構築法による難工事であるにかゝわらず、被災後一年有半の短日月をもつて今日芽出度く完工、その渡初式が挙げられますことは、御同慶の至りに存する次第であります。

これは偏に政府並に山口県当局の御援助によりますことはもちろんでありますが、地元岩国市民各位の高い文化水準と

郷土愛の結集によるものであることに、深い感銘を覚えるものであります。

錦帯橋が美術的観光施設として偉大なる価値をもつとはいいいながら、交通本来の面からは非実利的工作物であるにもかゝわらず、三百年前の日本の土木工学の粋を集めた大和民族が、世界に誇る構成美と理工学の金字塔を民族的遺産として現今の財源難の悪条件を克服し、この大事業をなし遂げられましたことに、さらに敬意を表する次第であります。

岩国市は岩日線の着工、錦川綜合開発という近代科学の輝く脚光を浴び、その拠点として重要な使命をもつに至りました、今日この名橋の落成は意義更に大きいものがあります。

謹んで茲に七萬岩国市民各位に敬意を表しお喜びの言葉といたします。

祝 辭

警戒せよ萬代不落の近代工学技術の粹にも

自然界の破壊力は隠微の中に強大なり

防長新聞社長 佐々木 健 兒

日本が独立を恢復して初めて迎えました新春の慶びの気分が漂うております今日は、また八千万国民が、挙つて祝う成人の日であります、この佳き日に当りまして、今回再建新成した錦帯橋の渡初式が行われます事は、慶祝二重奏とも申しましようか、重ね重ねお目出度い次第で地元皆様方の御満悦はもとより、私たち県民と致しましても、心からお喜び申し上げます次第であります。

建設大臣、田中県知事はじめ、各階層から多数の皆様方が来臨致されまして、かくも盛大な式典が行われますのに参列

出来ました事は、私の深く光榮とする処であります。いま新装こらした錦帯橋を仰ぎます時、新しい木の香は高くも春風に漂よい、調和と均整美の五連の橋は、くつくりと春空に弧を描き、清明な錦川に端麗な容姿を泛べ、萬人にその美を嘆称さすのであります。後には千古の緑を湛えた城山の松翠が陽に映えて一段と鮮かに錦の川は潺々淙々の楽を奏して城山の松籟と和して今日の渡初式を寿ほぎ祝するかのようであります。キジャ台風の豪水の犠牲となつた錦帯橋は、六万市民の切々たる悲願のもとに、挙市一体の御努力をはじめ県当局の御尽力、中央関係方面の理解深い英断と御協力によつて、流失後二年四ヶ月ぶりで原型を復旧再建に至りました。

思えば二百八十年前、日本独創の橋を建設されました吉川三代の英主広嘉公の英靈も、今日の盛儀を横山洞泉寺の墓下で照覽され、どれほどかお喜び相成る事と拜察するのであります。

承りますれば、今回の橋台工事には日本土木工学の權威によつて近代科学の粹が採入れられ、萬代不易のものと致されたとの事ではありますが、自然界の現象は不可抗力的な面も多々あつて、その破壊力は隱微の中にも極めて執拗強大であります。由来錦川は流程二十五里に及び、水勢の強暴性は九州の玖磨川にも比して一朝洪水に会えば、豪水は滔々と奔馬のようにその急流激湍による禍害の激甚さは、近年におけるキジャ・ルース台風による沿岸地帯の惨害に徴しても明かな所であります。これに対処するには森林の保護育成、河川の根本的改修、護岸の維持管理等々、関係当局の適切なる施策に俟つ事が大きいのであります。又住民が愛護の精神を以て不断の注意と協力を要する事は言うまでもない事であります。錦帯橋の維持管理について今後格段の御配慮が必要と思考する次第であります。何に致しましても、錦帯橋は他に見る事のできない独特の存在価値を有しまして、ひとり岩国の金看板ばかりでなく、古代日本が世界に誇る処の橋梁界の圧巻であり、奇観であり又白眉であります。

観光岩国はそのシンボルである文化財の錦帯橋を、守り育てゝこそ永遠に栄え、且つ不断の光彩を陸離たらしめるもので、この生命線を守り抜く事こそ岩国市民に課せられた重大な使命と考える次第であります。甚だ粗辞ではありますが今日の盛典に列し、所懐の一端を述べてお祝いの言葉と致します。

祝 辭

この山ありこの川あり更にこの橋ある
吾がふるさとの景觀

参議院議員 重 宗 雄 三

本日は国民挙つて成人元服の御祝いを致します佳き日を卜し、錦帯橋渡初式の盛典が挙行され御招きを受け御祝辭を申述べる機会を与えられましたことは、洵に欣快に存するところであります。

錦川文化三百年の星霜と共に、青史隆替の跡を眺め続けた此の名橋……然も永久不落の信念につちかわれ、朝夕市民に親しまれつゝ来ました此の錦帯橋が、昭和二十五年九月当地方を襲いましたキジャ台風の猛威により、一瞬流失の慘事に遭い、これが悲報を受けました時は、驚愕慨然暫し暗涙にむせんだものでありますが、別けて地元民各位の失望落膽は如何ばかりか——想像に絶するものであります。然るによくこの悲運を踏み破り、火の如く燃えあがる再建の意欲に鞭打ち、市民渾然一体となつて撓まざる勇氣の迸しる処能く中央政府当局を動かし、至難と思われたる原形復旧、これは当時の大勢としては至難と思われたにも係らず、其の所信を貫徹き得て、昔日其のままの名橋の姿を再現せしむるに至つたのを見ましたことは、何んと申しても喜ばしい限りで、地元民各位の勞苦も茲に始めて報いられ、衷心より慶賀に存する次第であります。

殊に私は平生遠く東京に在りまして、家郷を訪ねることも意に任せず御無沙汰勝であります。常住座臥、腦裏に去来するものは御城山を背景とした清流錦川に架る錦帯橋の姿でありまして、この山あり、この川あり、更にこの橋ある景觀は私の幼時を追想する唯一のよすがであり心の故里でもあります。

このなつかしい想出多き橋が再建されたのでありますから、私個人としても一入感慨深く喜びを新にする次第であります。

そのにつけても三百年前よくこの橋を架設せられ岩国今日の繁榮の基礎をきづかれた藩主吉川広嘉公の御偉業を偲び、此度こそは永久不落不朽の名橋として、公の御遺徳と共に長しえに光芒を放つべく深く確信しておるものであります。茲に輝やかしい錦帯橋再建の渡初式に当り一言蕪辭をつらねて御祝辭と致します。



祝 辭

此祝節に列した我等他国人は、岩国の
代辯者となつて、此一大傑作の復興を
世界に伝達せん

岩国空軍基地司令官 米空軍大佐 ジョセフ・エー・モーリス

通訳 岩国市渉外囑託 西川 忠 男

光榮とするところであります。

市長殿及び満場の皆様、本日は当市に取りて偉大なる歴史的意義を持つ行事を以て祝われる其席に、我れ我れも参加する機会を与えられたことは此上ない

世界的に有名なる錦帯橋の復興という事は岩国の皆様に取って由緒ある過去のつながりだけでなく、実にアーチスチック・マスターピースを皆様が取戻したことであります。此の場所に三百年近くも存在したる、あの印象的な優美なる建造物を復興され、其れをお祝いなさる此の記念すべき日に、われわれ国連軍の代表をお招き下つたことに対しては、特にお礼を申上ぐる次第であります。

承りますれば、初代錦帯橋は一千六百七十三年、建造されたこととありますが、実に三百年に近い古へにさかのぼる床しい話であります。思うにアメリカが独立を宣言したのは一千七百七十六年七月四日であるが、其の時には錦帯橋の年令は既に一百〇三年であつた。皆様の御存知の布哇群島がゼームスクツク船長によつて発見され其の存在を世界に紹介されたとき、錦帯橋は既に百〇五歳であつた。目を欧州に転じて見るならば、錦帯橋の建設せられた当時はフランスに於てはルイ第十四世が君臨して居り、英国にありては鉄血宰相クロムエルが亡くなつてチャールス二世が王座に復活したばかりの時であつた。かように初代錦帯橋の在りし間に、幾代となく人生は変替がありました。此く考えて来ると我々は此の岩国に取りて此の橋のもたらした文化的な其の価値が、一しお味われます。

皆さんの父母、祖父母、古へにさかのぼりての御祖先は、嘸かし此の崇高な建造物の単純な其の美によりて天啓（インスピレーション）を与えられたかのような氣持を蘇えさせられたこととあります。今ま時の皆さんも再建された此の橋に依りて嘸かしインスピレーションに心を打ち開かれたように新しく蘇えされたであります。何となれば此橋こそ伝統を誇る古えへのつながりであり、来るべき未来の人々も、此の度び此の日本的な建造物を復興なされた皆様に對し、満腔感謝の念と敬意を表することとであります。本日此の席上にあるわれわれとしても、以下述べる順に感謝と敬意を表します。

一、先づ第一に、千六百七十三年の古へに此橋を構想された吉川第三代に對して彼れの崇高なる美術感と、彼れの之を

完成すべく粘り強く成遂げた不撓不屈の精神。

二、先代岩国市長津田氏に対し、流失直後此の再建を決意した英断と、今日の成功をもたらすマスタープランを建てられた事。

三、現市長久能氏に対しては、先代が立案した復興プランを多難の折柄なるに係らず、今日の成功に持運ばれた鍊達堪能の精神。

四、工事現場に在りて努力せられし技手、大工、労働者其他各自分野に於てのプライドと能力とを以て奮闘せられし職業意識に対して敬意を表す。

五、此の世界的有名な橋の再建に当り、先見の明と忠実な協力を惜まれなかつた岩国市民、山口県の皆様、否な日本全国の皆様、官民を問わず、其の外報道陣の皆様へ。

以上の皆様へ感謝の敬意を特に表するものでありますが、何んと言つても、岩国の市民の皆様こそ、此の古典的な優美を持つ、而もそれが日本に於ても類似のない大傑作物の此の橋を持たれることは、実にお目出度いお話であります。

此の偉大な橋を眺めるにつけ、皆さまは嘸かし深甚な楽しみと、優越感を有せらるゝことと存じますが、其れはそうあつて然るべきであります。私として言わしむるならば、之を現地岩国の物だけとせず、否な日本国内の旅行者の享樂の物に止めず、世界の人々にも開放して其楽しみと喜びを広く分けていただきたい。何となれば、此くすることによりて橋はより偉大となり、我々諸外国の者に密接な友好關係をもたらすことになります。

他国から参つて居り本日此の席に列する我々としては、此の機に本日のお目出度い賑々しい行事や、此の橋の再建が美しく完成した吉報を、皆さんの代弁者となつて世界に伝達いたしましょう。茲に満腔の敬意を皆さんに表明して、感謝の意とお祝の言葉と致します（満場拍手嵐の如く起つた）